

第43号
2012年6月
NPO法人麦の会

理事長 明石澄子

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 TEL (FAX 兼) 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

< お 知 ら せ >

2011年産小麦の放射能検査状況は以下の通りです。

ご覧の通り、いずれの小麦も不検出の結果となっています。

品種	産地	ヨウ素	セシウム 134	セシウム 137	検出限界	備考
南部小麦	岩手産	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	パン用
北上小麦	青森産	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	クッキー用
ネバリゴシ	青森産	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	クッキー用
ゆきちから	岩手産	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	クッキー用
シラネ小麦	宮城県	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	クッキー用

いずれも東日本産業さんが、岩手県医薬品・衛生検査センターに依頼した検査結果です。

* パン用小麦は、5月中頃から2011年産に切り替わっています。

* クッキー用の小麦は6月中頃からの切り替えになるとの連絡がありましたが、予定が遅れる見込みで、6月一杯は2010年産の小麦になります。

* 現在、以下の製品を検査に出しています。

	検査日	ヨウ素	セシウム	セシウム1	検出限界	測定機関
食パン	5月22日	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	ヘルシーハットみんなをつなぐ測定室
コンコンブル	4月18日	不検出	不検出	不検出	10ベクレル	
バタークッキー	5月19日		不検出	不検出	25ベクレル	あいコープみやぎ
ネグロスクッキー	5月22日		不検出	不検出	25ベクレル	

現在のところ放射能は検出されていません。

引き続き自主検査等に出していきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

総会報告

飯嶋 茂

震災から1年2か月がすぎた5月12日、麦の会の総会を行いました。当日の事業報告をもって、総会の報告にかえます。

2012年度は、税の優遇措置が得られる認定NPO法人を目指したいと考えています。それにはまず会員の拡大が必要です。麦の会の賛助会員(年会費3000円)を募集しています。ご協力をお願いします。

2011年度事業報告

【1】東日本大震災以後

コッペとしても、個々のメンバーにしてもそれぞれが被災の度合いは違えども、2011年度は大震災の影響を色々な面でずっと受けていました。やはり、特別な1年であったと言わざるを得ません。

コッペの建物の被害は軽微なもので損壊の危険はないと判定されましたが、それでも外壁の一部が崩れたり、内装もちょっと穴が開いているところがあったり、ドアが閉まりにくくなったところがあったりしました。機械では、非常に重量のあるオープン的位置がずれ、自力では動かせなくなっていました。それらが直ったのは7月まで待たなくてはなりません。業務用の冷凍冷蔵庫も共同募金会よりの助成金を受け、買い替える予定になっていましたが、福島のいわき市にある冷蔵庫のモーターを作る業者が被災し、納入も7月にずれ込みました。

全国各地の皆さんからは、物資・カンパ・商品の購入など、多くの支援を頂きました。コッペにもたくさんの人が訪ねてくれました。その一つ一つに励まされてきました。本当にありがとうございました。

震災後、コッペのメンバーが全員顔をそろえたのは4月中旬でした。その時はやはりみんな嬉しそうでした。一緒に働けることのありがたさを改めて感じました。

しかし、みんなが揃っても売り先の確保が問題になりました。地元での販売先は、少しずつ再開するところも出てきましたが、当然元には戻っていません。

そこで、県外の皆さんからご心配の連絡を頂くたび、「買って下さい、売って下さい、それが一番の支援です」とお願いしました。おかげで各地で「復興市」を企画して頂き、県外からの注文も多く入るようになりました。また、コッペ以外の事業所の製品も取りまとめて各地へ送りました。結果として、2011年度の売り上げは、2900万(そのうち仕入れ販売分は約300万)ほどになりました。コッペの過去最高の売上でした。改めて協力して頂いた全国各地の皆さんにお礼を申し上げます。その中でも継続してご注文を頂いていることも多くあります。もちろん卸値で納入しているわけですが、コッペの商品の美味しさも評価された結果と思います。

今何より不安なのは、放射能の問題です。2011年度は震災前に収穫された小麦で生産してきました。放射能検査にも出し、不検出の結果がでています。2012年の5月以降は2011年度産の小麦に切り替わっていきます。仕入れ先の東日本産でも原料小麦・製品とも検査をし、不検出の結果が出ています。コッペとしても定期的に検査に出して安全性を確かめていかななくてはなりません。

原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していかなければなりません。

【2】 就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

就労継続支援B型の事業体系で運営を行なってきました。コッペの定員としては、20名。在籍は16名です。それを支えるスタッフは、常勤4名、パート6名です。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、コッペの運営に協力して頂きました。

① 開設状況

開設日数は、248日/年、利用者延べ数は、3,223人となっています。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,900万/年(仕入れ販売300万を含む)。月平均241万。先にも書きましたが、過去最高の売上です。2010年度の売り上げに比べ800万/年以上アップしました。仕入れ分を考えると、コッペの製品だけでも500万のアップになります。いわゆる復興特需のおかげです。秋からは各種バザー・区役所販売なども再開し、地元での販売も持ち直してきました。また、複数事業所連携事業の助成金を活用し、グループゆうさんとすまいる作業所さんとで販売協力にも取り組みました。具体的にはジャパンケアサービスさんの運営するディサービスに定期的に販売に行っています。

③ 訓練等給付費収入

こちらも初めて2,000万円を超えました。前年度に対して230万円ほど上がっています。利用延べ人数が増えたことが要因です。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で7万、最低1万、平均約44,000円となっている。前年より平均で4000円ほど上がっています。

⑤ コッペショップ

発送が増えたクッキーに対して、パンは震災の影響もあり卸先が減りました。そのためパンに関しては売上の中でもショップが重要な位置をめています。理事会の中でショップ会議をやり、プチ丸くんといった新商品の開発、その月の目玉商品の取り組みを行いました。

⑥ 新ホームページの作成

ホームページは前からあったのですが、あるだけのホームページでした。新しいホームページを作ろうと実は震災前から計画していました。ちょうどインターンシップで長期の学生さんの受け入れをすることになり、その学生さんの力を借りてツイッターを始めたり、ホームページ用の写真なども撮っていました。

しかし、震災の影響で結局新しくできたのは10月になってからでした。

新しいホームページは、非常に印象も良く、問い合わせフォームからの注文も来ています。動画もみることができ「麦の穂」のバックナンバーも掲載されています。更新については、新着情報欄とツイッターでできますが、正直たまにしかしていません。活用についてはまだまだ検討が必要です。

⑦ レクリエーション

今年もコッペも加盟している平成商興会の食事処「いちえ」さんから食事会のご招待

をいただきました。また、楽天ゴールデンイーグルスの試合のご招待を今年度もいただきました。

【3】雇用関係について

現在のコッペの収支では、全員と雇用関係を結ぶことは難しいため、就労継続支援B型のままで、出来る人から雇用を結ぼうという方向で話し合いを進めました。話し合いの結果、以下の条件を満たす人で、希望する人と雇用関係を結ぶことにしました。

- ① 8年目以上
- ② 20時間以上の勤務時間
- ③ 最低賃金の減額申請はする
- ④ 社会保険はかけない
- ⑤ 中退金は現在のコッペの財政状況ではかけられない

その結果、新しく2名と2011年1月より雇用関係を結びました。

実績を積むことにより少しずつ雇用関係を結ぶ人を増やしていきたいと思えます。

【4】理事会

計10回行いました。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっています。今年度の理事会でも、かなり白熱した議論ができたのではないかと思います。今後ともできるだけお互いに意見を出し合ってよりよい方向を考えていきたいと思えます。

【5】会員（3/31現在）

正会員30名 賛助会員49名 計79名（正会員5名増、賛助会員1名増）

税の優遇措置がとられる認定NPO法人の基準が緩和されました。今後賛助会員倍増を目指したいと思えます。

なお、サポーター会員39名（1名増）です。

【6】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ170部前後

2011年 5月 7月 11月 2012年3月

ホームページでも見ることができます。

【7】略

【8】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会であるが、障害者自立支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっている。

当然のことながら、NPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとフルハウスグループの一員として協力している。

ソレイユは、今回の震災で、古い方の建物が被害を受け、立て直しをしなければならない状況になってしまいました。2011年度中の完成を目指していましたが、工事が遅れ完成は2012年の6月にずれ込む見込みです。総費用見込みは、2,300万ほどです。民間助成金が1,100万、寄付金400万、借入800万となります。建て替えにあたっては麦の会として皆さんにも協力をお願いしました。

ソレイユとは今後も月1回のフルハウスの会議の他、ソレイユ祭りへの参加、合同学習会の開催、互いの商品の販売等、今後も連携を深めていきたいと思えます。

自己紹介

名前: 櫻井 直紀

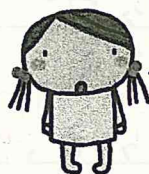
年齢: 39歳 (子年)



家族構成: 妻、娘 (2歳)

休日はいつも娘と一緒に遊びます。

アンパンマンが大好きです。



パパがんばれ～

好きなもの: お酒です

ほぼ毎日飲んでます。ビールが中心で、

たまにウイスキーや日本酒も飲みます。



お酒は好きだけど
すぐに酔ってしまうぜ

趣味: 野球観戦

楽天を応援してます。今年はまだ行ってませんので、

近いうちに行きたいと思っています。

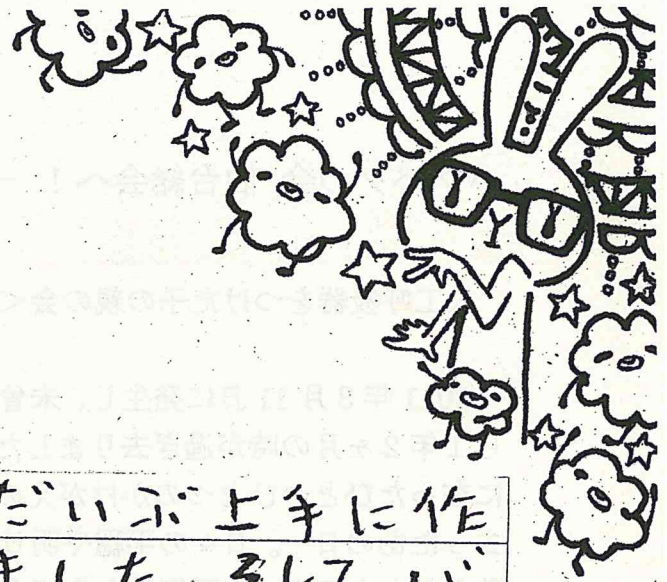
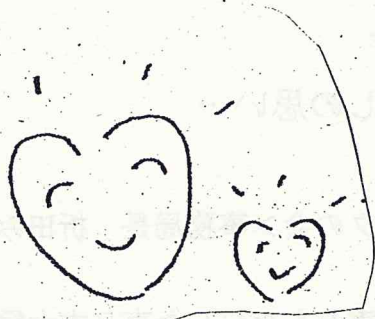
5月1日からコッペで働き始めて、あっという間に1ヶ月が過ぎました。クッキー・パン作りは立ち仕事なので、肉体的に大変つらい毎日ですが、あせらずに少しずつ確実に仕事を覚えて、頑張っていけますので、これからよろしくお願ひします。

青島 徳心 先生 私生活

私の仕事 明石 澄子

私は、コックで働いて、とても楽しいです。朝は、7時45分のバスにのって、泉中央で地下鉄にのりかえて、仙台で、またバスにのって、コックまで行きます。(パンの日は、少し早めのバスで行きます)クッキーを金笊板になうべたり、袋につめたり、生地をスめたり、おにみそクッキーや、ジンジャークッキーのはんこを押したりします。注文が多く来た時は、とても、いそがしいです。パン作りは、最初のうちば、むずかしくて大べんだった

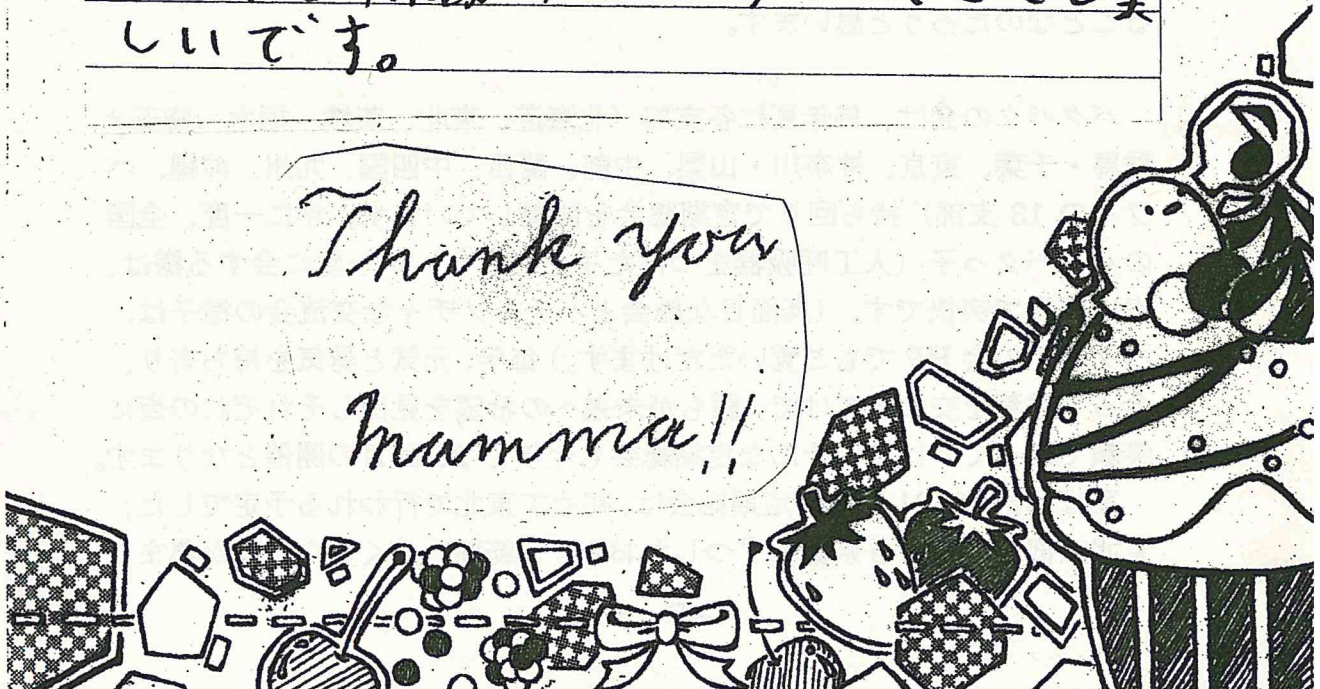




けど、今では、だいたい上手に作れるようになりました。そして、バザーや販売で、私達で作ったパンや、クッキーが売れると、とてもうれしいです。日曜日や、コップが休みの時は、音楽をききながら、さをり織りをしています。1日2時間ぐらいいしれ織れないけれど、注文をもらったり、お金がもらえるので、とても楽しく織っています。私は、さをり織りも、コップも、とても楽しいです。

Thank you

Mamma!!



バクバクの会 仙台総会へ！ 一年越しの思い…

人工呼吸器をつけた子の親の会<バクバクの会>事務局長 折田みどり

2011年3月11日に発生し、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年2ヶ月の時が過ぎ去りました。1万9千人を超える人々の、今そこに在ったひとつひとつのかけがえのない命が、毎日の日常が、一瞬で消え去ったあの日…。日々の平穏や明日への夢や希望や思いが微塵もなく打ち砕かれたあの日…。圧倒的な力で全てのものがなぎ倒されていく光景になすすべもなく茫然自失するしかなかったあの日を…私は忘れられません。

改めて、精一杯生き無念の中で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたすとともに、ご遺族の皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。また、すべての被災者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。そして、未だ行方不明の方々の一日も早いご帰還を念じております。

被災地では、未だ、明日の日常生活を取り戻すための希望の光さえ見えない状況の中で、ややもすると折れそうになる心を奮い立たせ、必死で命をつなぎながら生きておられる方々がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。そんな方々へ、非力な私たちでも、今もこれからもできることは何だろうと考えた時、バクバクの会のモットーのひとつ、『くやしい、せつない、でも あきらめない！』の気持ちを被災地に届け続けること、被災地の方々の命と思いに寄り添える支援が行き届くよう、訴え続けることなのだろうと思います。

バクバクの会は、毎年夏に各支部（北海道、東北、茨城、栃木、埼玉・群馬・千葉、東京、神奈川・山梨、中部、関西、中四国、九州、沖縄、ハワイの13支部）持ち回りで定期総会を開催しています。年に一度、全国のバクバクっ子（人工呼吸器をつけた子どもたち）が一堂に会する様は、実に圧巻で爽快です。（真面目な総会とハチャメチャな交流会の様子は、バクバクの会HPでもご覧いただけます。）毎年、元気と勇気を持ち寄り、会って言葉を交わすだけで、誰もが未来への希望を見出しそれぞれの街に笑顔で帰っていける…そんな定期総会も今年で22回目の開催となります。

実は、昨年21回目の定期総会は、初めて東北で行われる予定でした。東北支部は会員が各県数名ずつしかおらず、範囲も広く、なかなか集まっ

て支部活動を行えない状況もあり、定期総会の開催も一度も実現できませんでした。けれども一昨年、創立 20 周年を迎えたのを機に、未開催の地域に行き、その地域のバクバクっ子たちに会おうと、東北仙台での開催が決まり準備を進めていた矢先に、この度の大震災が起きました。予定地の仙台市内のホテルも被災、営業を停止し、公共交通機関の復旧の目処も立たないといった中で、バクバクっ子たちの安全を確保しながら開催することが可能なのかと考えた時、当時の状況ではリスクが大き過ぎ断念せざるを得ませんでした。こんな時だからこそ、みんなで行って元気を持ち寄ろうとの声もたくさんありましたが、会員にも自宅が倒壊するなどの被害を受けた者もあり、「もう 1 年 時間を掛けて準備をし、来年こそは仙台に集まろう！」ということになりました。そして、現在、数少ない東北支部会員が 8 月 5 日の仙台総会開催に向けて懸命に準備を進めてくれています。

この 22 年間、私たちは、子どもたちの“命と思い”を何よりも大切に、人工呼吸器をつけていてもどんな障害があっても“ひとりの人間、ひとりの子ども”としてあたりまえに自立して生きられる社会の実現をめざして活動をしてきました。人工呼吸器や医療的ケアの問題は、いつも子どもたちの自立と社会参加を阻む大きな壁となってきましたが、“できない”ではなく、“どうやったらできるか”を共に考え実践する中で、バクバクっ子たちは、人工呼吸器をパートナーに、自らの人生をイキイキと生き、成長し、保育園や学校に通ったり、電車やバスに乗って旅行を楽しんだり、大人になって自立生活を始めたりと、生活の場や世界をどんどん広げていってくれました。そして、人工呼吸器をつけて生きることは楽しいのだと私たちに教えてくれました。

しかし、一昨年 7 月臓器移植法が改悪され 15 歳以下の子どもからも脳死臓器提供が可能となり、また、尊厳死法（「終末期の医療における患者の意思の尊重に関する法律案（仮称）」）を今国会に上程する動きもあるなど（適切な医療を受けても回復の可能性がなく、死期が間近と判断される状態を「終末期」と定義し、本人の「希望しない」という意思表示があれば、人工呼吸器の使用や人工栄養の補給などの治療をしなくても医師は責任を問われなくとするものですが、現在すでに行われている治療の停止も含むという案も出されようとしています。）、人工呼吸器をつけて生きるような命は無駄で無意味だといわんばかりの命の線引きの勢いがますます強まっています。

3月11日の震災当時、福島で入院中だったバクバクの会のSくんは、原発の爆発事故により、「最悪の事態時には、人工呼吸器をつけており、意識障害が重いので医療の提供優先度は一番低くなる。置いて行くこともある。」とまで病院から宣告を受けました。一番弱い者を一番初めに助けるのではなく、一番初めに切り捨てていく…。まさに命の線引きが堂々と当然の如く行われていた事実には驚愕するばかりです。

一昨年、バクバクの会創立20周年を記念し、バクバクっ子たちによる、『いのちの宣言・文』が作られました。「どんな命も大切なのだ」「私たちの命を勝手に奪うことはゆるさない」との子どもたちからの心の叫びは、私たちみんなの命へとつながっていきます。命の中に物（役に立つか立たないか）をみようとする社会があることを忘れず、命を損なうものを見抜く視点を絶えず持ち続けていかなければなりません。どんな人の命とも思いも大切にされる社会であるために…。

福島のSくんは、「夏の総会で会おうね」との約束を果たせないまま、この4月4日、19年間の確かに在った生を閉じ、お空に旅立ちました。昨年開催できていれば…との思いが涙とともに滲みます。けれども、Sくんを始め、バクバクっ子からつながる命と思いを持ち寄り、みなさんと元気に仙台でお会いできればと思います。一年越しの『くやしい、せつない、でも、あきらめない!』の思いとともに…。どうぞみなさまも、バクバクっ子たちに会いに来てやってくださいね。

(8月5日のバクバクの会仙台総会の記念講演会のチラシを同封します。是非ご参加ください。)

4月末、石巻に NPO 法人輝くなかまチャレンジドを訪ねました。輝くなかまチャレンジドでは、さをり織りを中心に活動する「地域活動支援センターこころ・さをり」を運営しています。

石巻市吉野町にあった事業所は、津波で被災。幸い事業所は、6階建のビルに入居していたため、利用者や職員は全員無事でした。しかし、近所の方も含め、40人以上がそのまま1週間助け合いながら救助を待ちました。

ご自宅も被災された方が多い中、一時期は再開を断念することも考えましたが、利用していたメンバー・家族の再開してほしいという願いにも後押しされ、昨年8月に仮設住宅内にあるサポートセンターで事業所を再開することができました。(仮設住宅のサポートセンターとはバリアフリー仕様の集会場のこと。仮設住宅の方なら誰でも利用ができ、介護用のユニットバスやトイレも設置されています)

私が訪ねた時は、メンバーの皆さんが織り機に向かって熱心に作業をしていました。織り機や糸などのさをり織りの道具は、全国の仲間から支援を受け、取りそろえたそうです。

現状の課題としては、織りあがった布の縫製や販路の確保ということでした。ちなみに、こころ・さをりの製品は、「フッコー.com」というサイトで購入することが出来ます。

仮設住宅は1年間延長が認められましたが、いつまでもいるわけにはいきません。現在、安心して活動ができる施設建設を目指して、石巻市で土地を探しています。ただ、津波の浸水被害が大きかった石巻では土地を探すのも大変な状況にあります。

仮に土地が見つかったにしても、当然施設建設には多くの資金が必要です。民間の助成金の活用の検討や寄付金も募集しています。また地域活動支援センターのままでは、国庫補助も認められません。給付事業への移行も視野に入れる必要にも迫られています。

東日本大震災から1年以上過ぎましたが、こころ・さをりさんを始め、支援を必要としている障害者事業所はまだ多くあります。

私自身も少しでも支援をしていきたいと思えますし、多くの皆さんからの引き続きのご支援をお願いします。

なお、「こころ・さをり」で検索するとブログを見ることができます。

僕の云息

僕の本当は「スキ-のセリりの云息」

云息はとても強い一番の包下が

僕ってピクリよくな「云息の力です。」

新しいコップになってもおいしくできる

よりにパンヤフッキーもうれるように

なってバから強く思っています。

皆の力であのコ-プのミックスフッキー

入れてあのコ-プ様にあげましょう

「云息は東北の町に谷欠い」